

群馬銀行グループの「パーパス経営」

◆ 私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

群馬銀行グループは2021年11月20日、「パーパス」を制定しました。多くの社会課題に直面するなか、「私たちは社会において何のために存在し、社会の未来に向けてどのような働きかけができるのか」という思いのもと、自分たちの存在意義を見つめ直し、パーパスとして決めました。

2025年4月よりスタートした新中期経営計画「Growth with “Purpose”」においては、前中期経営計画にて取り組んできた「パーパス経営」を、より高次元にしていきます。

新中期経営計画 ▶ P.34

パーパス浸透モデル

パーパス

制定の目的

- **判断軸の共有**
社会的な存在意義であるパーパスを定めることで、当行グループおよび役職員の判断の軸を共有して変化に対応していくため。
- **一人ひとりの仕事のやりがい**
業務が多様化・複雑化するなかで、パーパスを通じて、「なぜ自分はこの業務を行うのか」を明確にし、仕事のやりがいに繋げていくため。
- **ステークホルダーとの共感**
対外への積極的なパーパスの発信やパーパスの体現を通じて、お客さま、地域社会、株主、役職員といったステークホルダーとの共感や信頼関係を、より高めて企業活動を行っていくため。

各社・各部・各支店ごとの「目指す姿」

各室・各係ごとの「方針」

グループの全役職員ごとの「個人パーパス」

中期経営計画

Growth with “Purpose”

パーパス経営を高次元にし3つの成長を目指す

お客さまや地域の成長
当行グループの成長
役職員一人ひとりの成長

基本方針Ⅰ

社会的価値・経済的価値の好循環の構築



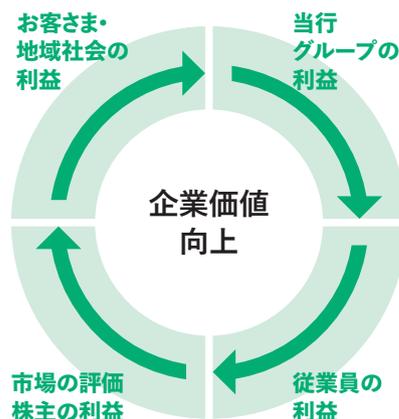
パーパスを具現化するモデル

+

基本方針Ⅱ

持続的な成長を支える事業基盤の強化

アウトカム



4つの領域を
同時に実現する

地域社会と当行グループの
持続的成長へ
「目指す姿」

パーパスの実現へ

◆ パーパス経営のステップ

【設定】2021年11月

- パーパス検討にあたり、グループ役職員から①～③について意見を募集し、755件の応募があった。
 - ①当行グループの本質的な強み
 - ②社会から期待されていること
 - ③当行グループの存在意義



深井頭取と若手行員によるパーパス策定に向けた意見交換会

【浸透】2021年11月～

- **個人**
 - ・パーパスに基づき、行員一人ひとりが「個人パーパス」を設定。
 - ・個人パーパスは部店内で共有、実現に向けて相互支援。
 - ・個人パーパスをもとに目標設定。
- **地区、支店**
 - ・パーパスに基づき「地域戦略」を策定。
 - ・パーパスと地域戦略に基づき各営業店が「中期営業店経営方針」を策定。
- **浸透ツール**
 - ・頭取が説明する行員向け動画の発信。
 - ・営業店、本部でのポスター掲示。
 - ・名刺への掲載、新聞広告。

【実践】2022年4月～

- 2022年4月、パーパスを軸とした前中期経営計画「Innovation for “Purpose”」を策定。
- 2023年7月、個人パーパスに対する取組みを表彰する「個人パーパス AWARD」を実施。
- 2025年4月、新中期経営計画「Growth with “Purpose”」を策定。

収益目標に加え、パーパス実現に向けた計数目標である「つなぐKPI」やパーパス実現に向けた活動（プロセス）を評価・表彰。

「社会的価値」と「経済的価値」を両立する銀行グループへ